

平成19年第1回小金井市教育委員会定例会議事日程

平成19年1月9日(火)

午後1時30分開会

開催日時	平成19年1月9日	開会 1時27分 閉会 2時19分	
場 所	小金井市役所第二庁舎 801会議室		
出席委員	委員長 伊東 浄堯 委員長職務 代理者 亙理千鶴子 委 員 菊地 邦夫	委 員 伊藤 恒子 教 育 長 谷垣十四雄	
欠席委員			
説明のため出席した者の職氏名	教育部長 本多 龍雄 教育部次長 石川 明 兼生涯学習課長 学務課長 福田 協司 庶務課長 尾上 明彦 指導室長 富士道正尋 指導主事 風見由起夫 指導主事 浜田 真二	公民館長 中嶋 登 図書館長 古屋 雅裕 体育課長 林 文男 庶務課長補佐 小野 朗 兼庶務係長 生涯学習課長補佐 伊藤 信之 兼生涯学習係長	
調 製	副主査 山内 和子		
傍聴者人数	1名		

日程	議 題	
第 1		会議録署名委員の指名
第 2	議 案 第 1 号	平成 1 9 年度学校教育及び社会教育の重点施策について
第 3	議 案 第 2 号	小金井市誌編さん委員会条例の一部を改正する条例
第 4	報 告 事 項	1 平成 1 8 年第 4 回市議会定例会の結果について 2 成人の日記念行事の結果について 3 第 4 4 回東京都公民館研究大会の結果について 4 その他 5 今後の日程について

伊東委員長 少し早いようだが、始めさせていただく。
改めまして、あけましておめでとう。ことしもよろしく願います。
平成19年第1回小金井市教育委員会定例会を開会する。
日程第1、会議録署名委員の指名。本日の会議録署名委員は、亙理委員長職務代理者と菊地委員に願います。よろしく願います。

(委員一同異議なく、上記2名が選出された。)

伊東委員長 日程第2、議案第1号、平成19年度学校教育及び社会教育の重点施策についてを議題とする。

谷垣教育長 提案理由であるが、平成19年度学校教育及び社会教育の重点施策を定める必要があるため、本案を提出するものである。
細部については、担当から説明する。よろしくご審議の上、ご議決賜るよう、よろしく願います。

浜田指導主事 平成19年度学校教育の重点施策についてご提案させていただく。
小金井市学校教育の指導目標に基づき、積極的に教育行政を推進していくために、平成19年度学校教育の重点を資料のとおり定めたいと考える。
大きな改訂としては、生きる力を、豊かな人間性、確かな学力、健康・体力ととらえ、項目の整理を行うとともに、個々の文章の整理及び文言の訂正を行った。新たに加えた主なものとしては、資料を見ていただきたいが、3の(3)生命尊重の態度の育成について、3の(4)いじめの問題解決に向けての指導の徹底について、4の(1)小学校英語活動の実施について、4の(6)読書活動の推進について、5の(2)授業改善サイクルの定着について、7の(5)学習指導要領に基づいた指導計画の適正な実施についてが主なものである。
以上、学校教育の重点についての提案を終わる。

伊東委員長 ありがとう。

他に説明。

石川
教育部次長

小金井市社会教育の目標である。

市民が豊かな人格形成と市民意識の高揚を目指し生涯にわたって、あらゆる機会、あらゆる場を利用し、実生活に即した文化・教養を高め、スポーツ等に親しむことのできる環境の整備を図るとともに、自主的・自発的な文化・学習活動を発展させるための諸施策を推進すると、目標を定めている。

社会教育の重点であるが、昨年度と変わった点で申し上げますと、2、青少年教育の推進、(2) 青少年が豊かな人間関係や社会性をはぐくんでいくことができるよう、指定管理者と連携し、とあり、今回初めて清里山荘が指定管理者になったので、そこを活動拠点として、今後も青少年教育を推進していきたいということである。

4である。文化活動の推進、(2) 新たな市史づくりを目指し、調査研究を進めるとともに、市制50周年記念事業に向けた取り組みを強化しますとしている。平成20年10月1日の市制施行50周年を記念して、『小金井桜』を発行する予定となっている。この市制施行50周年記念を契機に、平成22年度以降、資料編についても考古から現代までの冊子を、順次通史を含めて発行をする予定になっている。

5、公民館活動の充実であるが、特に(3) 子どもから高齢者まで世代間交流により、ともに学び、お互いの理解を図る異世代交流講座を設けることで、異世代交流事業に公民館としても実践で取り組んでいきたいとなっている。

6、図書館活動の充実という項目であるが、昨年度までインターネットの普及について言及してきたところであるが、現在、図書の検索が365日24時間可能となっているので、その部分については削除している。

社会教育の重点については以上である。

伊東委員長

ありがとう。

この件の説明に関して、あとはよろしいか。

ただいま事務局の説明が終わったので、議案第1号についてのご質問、ご意見を願います。

私から1つよろしいか。

今、浜田指導主事のほうから幾つかの違いについて、大きなところをお示しいただいたが、7の地域に開かれた学校づくりというくくりの中で、(5)に、年間指導計画の適正な作成・実施、週ごとの指導計画の作成及び点検の徹底を図る。対照表を見ると、今までにない内容のような気がするが、その点について、私、教育のプロじゃないものであるから、少し説明いただければありがたいと思うが。

浜田指導主事 高校での単位未履修問題等あったが、地域に信頼される学校づくりをしなければいけないということで、学習指導要領に決められた時数、内容をきちんと行っているところを、点検し、学校でも管理職等が年間指導計画、そして週ごとの指導計画によって点検をしていく。それによって地域に開かれた信頼される学校づくりを推進していこうと、このような意味が入っている。

伊東委員長 わかった。ありがとう。
他に何かあるか。

谷垣教育長 今聞いているのは、学校教育の重点の柱組みと、それから新旧対照表の柱組みが違うので、それについて何か考えがあるかということ聞かれているんだと思うが。

伊東委員長 私の質問が……。

伊藤委員 少し補足してもいいか。

伊東委員長 伊藤委員が質問して、それからまとめてお答え願う。

伊藤委員 今の教育長と伊東委員長の質問の主旨は、教育行政の基本方針に学校教育の重点が1から7までである。その1、2、3も豊かな人間性及び社会性とあるが、こちらのほうでは社会性という言葉が削られて内容に盛り込まれているんだらうと判断した。4番はそのままで、5番の「生きる力」を、確かな学力と健康教育に具体的に書かれたんだらうと読み取った。6番の地域に開かれた学校づくりと、教職員の研修・研究を一緒にして7番としたんだらうと思った。も

しそうならば、学校教育行政の基本方針を、そのようにするのがよりわかりいいのではないか。あえてそうしなかったならば、その辺を承らせていただきたいということである。

浜田指導主事　　今、ご指摘あったように、前年度の6番、7番をあわせて、今回、地域に開かれたということでもとめさせていただいた。実は、1枚目の基本方針については全体を見直そうという考えがあり、指導目標をしっかりと一度見直した上で、この重点をもう一度つくり直したいという気持ちがある。そして、今年度に関しては、指導目標に対する学校の重点、これが今までどおりの学校の重点として位置づけており、あえて今年度だけそれを再構成してこのような形にさせてもらった。来年度については、この指導目標を含めて、重点も改めていきたいと考えている。

富士道
指導室長　　補足させていただく。
冒頭、今お話しあった教育行政の基本方針であるが、これはまさしく教育行政全般の基本方針であり、市としての考え方ということではない。今年度については、全体の見直しを教育委員会全体として行うというような話は聞いていないので、とりあえず学校教育の重点の整理をさせていただいたということである。当然、将来的には教育行政全体の基本方針の見直しというのも視野に入れることは必要だろうと思う。

谷垣教育長　　そうではない。ここに学校教育の重点というのが、教育行政の基本方針の中にあるわけだ。その柱組みと同じような学校教育の重点の中身の柱立てとが違うのはなぜかということだ。

伊東委員長　　他に何かこれについて教育委員さんからご意見があれば、先にお伺いしたいと思うが。

富士道
指導室長　　今のご指摘であるが、学校教育の重点ということを、確かに方針の中で1から7まで述べているが、これを受けて、19年度特にとということで、今回このような整理をさせていただいたということである。

伊東委員長　　よろしいか。そうすると、教育行政の基本方針と書いてある1ページのものも永久的なものであって、その次のページの平成19年度学校教育の重点については、平成19年度のものだけだと、そう理解してよろしいか。

本多教育部長　　そういうことで。

伊東委員長　　いいか。

伊藤委員　　内容的には非常に具体的に、何を取り組むべきかということが的確になり、かつ、視野が細かいところまで行き渡って大変よい。学校現場としては取り組みやすいものになっているのではないかと評価した。

ただ、先ほども言ったように、やはり基本方針からこういったものがおりてくるのではないかと考えたときに、それを踏まえることがわかりやすいことである。また、教職員の研究・研修というのは、7番の中に2項目つくられていると思うが、(3)と(5)に、内容が教員が力を持ち、確かな教育をしていくことが、地域に開かれ信頼された学校であるという意図だと読み取らせていただいた。しかし、教育委員会として教員の資質向上というような視点があってもいいのかな、または、地域に開かれた学校づくりという前文に、確かな教職員で、確かな学校で、そのことが信頼される学校なんだということの文章があるならば、開くということと教員の資質の向上ということがリンクされるならばわかりいいのかと思う。

内容的にはすべて網羅されていると思うし、全体的には非常によいものができていると思っているが、その点が、これだと教育委員会として教員の資質向上という視点がやや弱くなったのかというような、印象かと受け取らせていただいた。

あと一つ、特別支援教育の中と、それから4番の個性伸長の教育の中に、乳幼児からと、就学前施設について言及しているが、学校教育の中での乳幼児からというのと、就学前施設について、取り組みを進めるとあるが、どのような具体的なものがあるのか、学校教育目標であるので、学校としてどうしていくのかという具体的なイメージが沸かないが、いかがか。

伊東委員長 その2点について、ご説明をお願いします。

浜田指導主事 乳幼児のところでよいか。

伊東委員長 まず、乳幼児のほうで。

浜田指導主事 乳幼児のところであるが、幼稚園については学務課である。保育園が子育て支援課ということで、教育委員会と違う場所にあるが、特別支援教育とのかかわりもあり、就学支援シートという就学するときに支援が必要な子に対する支援策を引き継いでいくというような考え方である。

それから、乳幼児との連携であるが、今言われているように、小学校1年生で、なかなか落ち着かない状況というのがあり、その中で連携を図るということで、できれば行事等で、幼稚園、保育園を招待したり、あるいは中学校と小学校がやっているような、体験のできるような、交流できるような、場を設けたりとか、小学校へ上がる前の子たちが、小学校に適応しやすいような、取組みをぜひ小学校で進めていただきたいというふうに考えている。

伊東委員長 よろしいか。

伊藤委員 すばらしいことだと思う。ただ、それにはやはり相当な特別支援教育の組織が動いていくことが必要だろうというふうに思うので、ぜひよろしくお願ひしたいと思う。大変大事なことだと思う。

伊東委員長 先ほどの学校教育の重点にちょっと戻らせていただくが、これはどうしても1ページ目の学校教育の重点と、7番目あたりの教員の資質向上が、地域に開かれた学校づくりの推進という、この一つの文言でくくられているというのは、大変私は残念な感じがする。

今、各小学校、中学校でも、研究奨励校などで、盛んに先生方が授業そのものに対し、勉強し、研究されている。対外的に発信もしている中で、やはりみずからが研修したり、みずからが研究したりしているわけで、この辺も、地域に開かれた学校づくりのついでにあるようなものではなくて、やはりこれは互換性がなくても、8番目なら8番目できちんと研修についての位置づけを図るべきだろ

うと、私はこのように思う。

富士道 指導室長 ご意見をちょうだいしましたので、少し検討させていただきたい
と思う。

伊東委員長 よろしく願います。
他にあるか。

菊地委員 全然違うが、2の特別支援教育の推進の(2)で、LDとADHDの、
高機能自閉症等の障害であるが、実質的に体制の整備という
ことで、何か具体的な方向性が出てきているのか、お聞きしたいが。

浜田指導主事 特別支援教育の推進であるが、来年度予定していることを幾つか
ご紹介すると、現在、まず一番先にやらなければいけないことは、
今、特別支援教育推進検討委員会のほうで答申が出るので、答申を
教職員、児童、生徒、保護者に対して、特別支援教育の理念、障害
の理解、啓発を図るということを、来年度しっかりまず進めなけれ
ばいけないと考えている。その上で、学校内での特別支援教育の体
制を整えていくと。具体的には、各校の特別支援教育コーディネー
ターの養成研修会、各校1名を指名されているが、月1回程度、計
10回程度実施したいと考えている。

それから、教員対象の特別支援教育推進のための研修会、2日程
度開催したいと考えている。それから、若手教員を対象とした特別
支援教育の推進のための研修会、これも2日程度予定している。

それから、専門家によるチームを設定して、医師、臨床心理士等
を含めたチームを設定し、各学校に、学期に1度程度巡回相談とし
て訪問したいと考えている。その中で、個別の指導計画、特別なニ
ーズを必要としている子どもたちに対する個別指導計画の作成の
手だて、支援を行っていきたいというふうに考えている。

それから、都立盲・ろう・養護学校、来年度から特別支援学校と
名前を変えるが、そことも連携をしながら、副籍制度の居住地にお
ける交流活動、共同学習を推進していきたいと考えている。

以上である。

伊東委員長 よろしいか。

菊地委員 頑張ってもらいたいと思う。

伊藤委員 1ついいか。3番の豊かな人間性をはぐくむ教育の推進、前は、豊かな人間性及び社会性とあった、「及び社会性」をあえて削られた意図を教えてください。

浜田指導主事 文科省のほうで、生きる力のとらえ方が、豊かな人間性、確かな学力、健康・体力というように、3つに分けているので、豊かな人間性の中に、もちろん社会性も含まれているというふうに、こちらではとらえて、文言を見ていただけるとわかるが、もちろん社会性をはぐくむということがしっかり入っていると考えている。

伊藤委員 そう思う。やっぱりそうすると、この教育行政の基本方針には、豊かな人間性及び社会性というふうここに書かれているので、そのあたりを整合性という言葉がいいのか、それともここの重点からイメージされるものとするほうがいいのか、その辺よくわからないが、それが一つ今後の課題だろうと思う。

また、ここでも4番に個性の伸長と創造というのが、これもここには別項目としてはないので、そのあたりをぜひ来年度に向けてよき解決ができるといいなと思っている。

以上である。

伊東委員長 私からもう一つ、2番目の特別支援教育の推進の(7)に、いじめ、不登校の課題に対応というのがあるが、その中で、通級学級ということは今後考えていかないのか。もしその辺のお考えがあればお伺いしたいと思うが。不登校の問題で。

富士道 指 導 室 長 いじめ、不登校についての相談は、現在相談所が主に行っている。また、特に学校の不適應については、もくせい教室等が対応しているが、今の通級というのはどのような意味か。

伊藤委員 LDとかHDか。

伊東委員長 今の、取り消す。私も不勉強なところを言った。やめる。

富士道
指導室長

LDであるとかADHD、高機能自閉症の子どもたちの通級というのは、基本的に今お話し申し上げたが、巡回のチームと、さらに支援チーム2つで、学校で実際には教室から取り出しをして個別指導ということが考えられる。また、実際には通級するだけのクラスをたくさんつくるのが、現時点でなかなか難しいものであるから、人的配置等が必要であり、今後、都なり国の動向を見ながら設置等をしていくしかないが、現状の中では、そういう巡回指導の形で取り出しをして指導していく。また担任が個別指導計画に従いながら、その後、その子に課題を与えながら進めていく、これが現実的な指導かと考えている。

伊東委員長

ありがとう。
他にあるか。

伊藤委員

社会教育のほうはいいか。

1つ、瑣末なことであるが、4の(2)の文末が、あえて「します」にした理由はあるか。普通は言い切りの文になっている、例えば、「強化する」とか。ほかは「図る」とかとなっているが、ここは「強化します」となっているのは何か意味があるのか。それとも「強化する」、文末の問題だと思うが、何かここだけこうしているのは、しようかと思っているのかと。

石川
教育部次長

ご指摘のとおりであり、「強化する」である。私どものほうも見落とし、申しわけない。特に意味はないので、「強化する」とお答えする。

伊東委員長

よろしいな。

そうすると、これは少しまだ検討いただいて、項目を整理するとか、幾つか今ご意見が出たのをもう一回、時間はあるのか。それともここで一回採択して、項目だけ整理するというような形にしていたほうがいいのか。どうなのか。

本多教育部長

継続。

伊東委員長 継続で、時間的にいいか。

尾上庶務課長 次回のときに。

伊東委員長 今、質問がたくさん出て、また、ご意見もたくさんちょうだいし、ありがとうございます。

それでは、平成19年度学校教育及び社会教育の重点施策については、次回までにご検討し直していただくことにするので、ひとつよろしく願います。

議案第2号、小金井市誌編さん委員会条例の一部を改正する条例を議題とする。

谷垣教育長 委員会の名称を改めるとともに、組織改正に伴い、規定を整備する必要があるため、本案を提出するものである。

細部については、教育部次長から説明いたすので、よろしくご審議の上、ご議決賜るよう、お願い申し上げます。

伊藤生涯学習
課長補佐 生涯学習課長補佐のほうで行う。

伊東委員長 願います。

伊藤生涯学習
課長補佐 ご説明申し上げます。

小金井市誌編さん委員会条例の一部を次のように改正する。

条例の題名であるが、市誌の「誌」、市誌編さん委員会条例を、小金井市史編さん、これは歴史の「史」のほうへ改めるということである。

理由であるが、「誌」は、現状のままを、ありのままを記述することで、地理的な意味合いを含む、一方、歴史の「史」のほうの市史であるが、こちらのほうは歴史的な記述の意味合いが強くなっている。今回、シシの編さん方針であるが、通史的な観点から充実するため、「市史」のほうがふさわしいと考える。また、他市においても、「誌」を用いる委員会は極めて少なくなっている。このため、一般的な市史、「史」のほうへ改めるものである。

次に、第1条であるが、これも「市誌」を「市史」に改めるとい

うことで、「小金井市誌編さん委員会」を「小金井市史編さん委員会」に改めることになる。

次に、第10条である。これは見出しを含むが、「専門委員」を「編集委員等」に改めるものである。理由であるが、独任制の専門委員ではなく、合議制の編集委員とするということである。また、監修者を置く場合もあることから、編集委員等とすることが適当であると考えたものである。

11条中の市誌である。これは「市誌」を「市史」のほうへ改める。また、「教育部」を「生涯学習部」に改める。市誌の部分については1条と同じ理由である。教育部から生涯学習部へというのは、組織改正に伴っての変更である。

説明は以上である。よろしく願います。

伊東委員長

ありがとう。

ただいまご説明いただいた議案第2号について、質問、ご意見はあるか。

特別ご質問、ご意見ないようである。

それでは、議案第2号、小金井市誌編さん委員会条例の一部を改正する条例について、原案どおり市長に申し出ることにご異議ないか。

(委員一同異議なしの声)

伊東委員長

ありがとう。

議案第2号、小金井市誌編さん委員会条例の一部を改正する条例については、異議なしと認め、原案どおり市長に申し出るものとする。

日程第4、報告事項。順次担当の方から報告をお願いします。

本多教育部長

報告事項1、平成18年第4回市議会定例会の結果について、報告させていただきます。

平成18年第4回市議会定例会は、12月1日に開会し、12月21日に閉会した。

今定例会には、市長提出案件として、平成18年度補正予算3件、条例の制定1件、条例の廃止1件、条例の一部改正4件、整理条例

1件、規約の一部改正4件、広域連合の設立1件、事務受託の廃止等1件、財産整理に関する和解1件、土地の買い入れについて1件の計18件が提出され、審議された。その結果、提出された案件はすべて原案可決された。

可決された一般会計補正予算の中に、教育関係では主なものとして、東小学校、南小学校及び緑中学校の校舎耐震補強設計委託料、緑中学校身障者用トイレ等改修工事及び校舎耐震補強設計委託料についての債務負担行為の追加補正が含まれている。

なお、今定例会における一般質問については、22人の議員から通告があった。教育関係では、12人の議員から14項目にわたり質問があった。質疑の詳細については、報告事項1資料として配付させていただいているので、後ほどお読みいただきたいと思う。

以上で報告を終わる。

伊東委員長

ありがとう。
何かあるか。

亘理委員長
職務代理者

よろしいか。ある議員の質問に対して、英語教育において、19年度から、本市全小学校において外国人英語指導授業を本格実施に向けて検討を行っていきたいと考えているというご答弁であるが、これは4月からALTの先生が各校に入って英語授業が展開されるということか。

富士道
指導室長

今お話しあったとおりであり、全校に今年度、前原小は入っているが、あの形で全校で実施をしたい、そういうことで実施に向けての検討を行っているということである。

伊東委員長

よろしいか。

亘理委員長
職務代理者

わかった。

伊東委員長

他にあるか。
それでは、報告事項2、成人の日の記念行事の結果について、お願いします。

伊藤生涯学習 平成19年成人の日記念行事の開催結果についてご報告する。
課長補佐 昨日は、全教育委員の皆さんにご出席いただき、大変ありがとうございます。
ご案内のとおり、平成19年の成人の日記念行事は、1月8日月曜日、成人の日に、中央大学附属高校の講堂で行われた。
当日であるが、10時半開場、11時開演である。前年同様、1部、式典、2部、抽選会で、13時30分にすべての行事を終了している。
例年どおりであるが、貫井囃子保存会、着つけについては国際ソロプチミスト東京ー小金井、生け花は小金井文化連盟華道部、受付は小金井スカウト協議会のご協力をいただき、地域で支える成人式となったことは大変喜ばしいことだと思っている。
参加の状況である。対象者は1,306名である。うち出席者が608名ということで、出席率が46.6%となっている。18年の出席率が49.5%であるので、昨年より2.9%ほど減っている。これは会場が市の中心部から遠くなったためではないかと考えている。会場整備などには教育委員会各課及び行政管理課の職員の協力をいただいた。式典中、多少元気な成人も見られたが、職員の適切な対応により無事に式典を終了することができた。ご協力に感謝にしている。
本年度は学校施設を借用するため、軽食やもちつきなどの飲食は行わないこととした。かわりに、初めての取り組みとして、地域のサッカーチームであるFC東京の選手からのビデオメッセージをいただき、抽選会の前半部分で紹介した。また、ユニフォームやペアチケットなどの商品の提供もいただいている。中央大学附属高校での成人式は今年が初めてのことであるので、問題点等を洗い出し、来年度はさらによいものにしていきたいと考えている。
以上である。

伊東委員長 ありがとう。
昨日参加されて、ご感想などあれば。

菊地委員 確かに遠かった。

亙理委員長 いつも会場でもちつきや軽食があるわけだが、今回はなかったの

職務代理者 で、その後、どこへ流れたのかということが気になった。例えば、二中などでは、二中の体育館で、その後みんなでお祝いをしたというような話も聞いたので、まとまって動いたのかと感じている。

伊藤委員 場所もあったと思うが、年々簡素化するなという思いを持たせていただいた。

伊東委員長 それは、いいこと、悪いこと。

伊藤委員 どちらもあるのではないか。

伊東委員長 ということで、ご参考になるかどうか分からないが。
それでは、報告事項3、第44回東京都公民館研究大会の結果について、願います。

中嶋公民館長 12月3日日曜日、午前9時30分から、小金井市立小金井第二中学校体育館を全体会会場として、第44回東京都公民館研究大会を開催した。参加申し込み者数は428人で、22自治体から、全体会参加者数は358人、課題別集会参加者数は396人の参加があった。

第44回の全体会テーマは、「地域づくりが果たす公民館のあり方と新しい創造」と題し、私たちの地域において人々の暮らしを豊かにする公民館とは何なのかを追求することと、新しい創造を求めるきっかけの場を考える機会として研修を充実する方向で開催した。

開会前に、本館で活動している小金井ビデオサークル制作のビデオ、「小金井の四季」を上映の後、全体会からのメッセージとして、開会の言葉を東京都公民館連絡協議会町田富士雄副会長から、主催者あいさつを落合忠繁会長から、来賓あいさつを東京都教育委員会教育長にかわり磯貝達男社会教育課長と小金井市稲葉孝彦市長から、歓迎のあいさつを谷垣十四雄教育長から、次いで本大会事務局長中嶋登から開催趣旨の報告をし、小金井市公民館の特徴である企画実行委員制度について、本館の公民館企画実行委員である末包房子委員からの説明、来年度に研究大会事務局市になる昭島市公民館来住野定男館長からのあいさつ、そして、ご協力をいただいた江戸

東京たてもの園の近松鴻二係長から、地域資源としての同園について紹介をしていただいた。

全体会終了後、各市の公民館運営審議会委員と職員、本市の企画実行委員と教育委員会派遣職員により、第1、第2、第4、第5課題別集会を公民館本館で実施、第3、第6、第7、第8課題別集会を第二中学校で実施、概ね午後4時頃終了し、撤去から現状回復まで、事故、けがなどなく、無事に終了した。

また、アンケートにつきましては、122件の貴重なご意見をいただき、今後の運営の参考にしていきたいと思う。

現在、研究大会記録集の作成に向け、各集会から原稿の提出を依頼中、本年3月にはCD-ROMの記録集を参加者に配布を予定している。

最後に、大会参加費に加えて、東京都公民館連絡協議会と本市の予算範囲内で実施することができたことをご報告し、教育委員会委員長並びに全委員のご出席をいただき、また教育委員会職員のご協力に対して感謝を申し上げます。

以上である。

伊東委員長

ありがとう。

何かご感想、あるか。

亘理委員長
職務代理者

私は、第3課題別集会の知的障害者学級で勉強させていただいた。私が少し勉強不足だったせいで、青年学級のみについての会議であるということの認識不足であった。であるから、青年学級はどこから補助が出るのかなんてというような的外れな質問をしたりして、公民館であったので手を挙げたが。

例えば、23区は青年学級が学校で行われているのに、市では公民館でなぜ行われているのかとか、例えば小金井市の青年学級の悩み、定年がないので年代差が大きく、ボランティアが高齢化しているとか、そういうようなことが聞かれた。

日ごろ熱心に障害者とかかわってられる多くの方と出会い、非常に頭の下がる思いで帰った。

伊東委員長

ありがとう。

他にあるか。

伊藤委員

私は第4分科会に出させていただいた。思春期を地域でだったと思うが、そこに参加している方が、公民館関係の人、地域の方が、既に変交流が深いということを感じさせていただいた。皆さんがお会いになって、自分たちの取り組みを個々にお話ししているような場面に接して、大変熱心で情熱を持って取り組んでいらっしゃるんだなということと、大変地域に密着して活動が行われているということをしごく強く感じた。最終的に、子育てとか思春期の子どもたちに、どう大人としてかかわっていったらいいかというようなことで、要は最終的にどこでも、いつでも、どうしている、大丈夫というような声かけをしていきたいと思いますというようなことで終わったことが大変印象深かった。

参加させていただいて大変よかったという感想を持った。

伊東委員長

ありがとう。

公民館長、お疲れさま。なかなか盛大に行われて、こちらも大変うれしく、誇りに思った。ありがとう。

その他、報告あるか。

風見指導主事

いじめアンケートの実施について報告させていただく。

2学期末に、市内全小中学校においてアンケート形式によるいじめの実態調査を行った。これは、昨年11月8日に、いじめの実態について緊急調査を行ったが、この調査では、中学校ではすべてアンケート形式であったのに、小学校については、一部の学校でアンケートの形式、その他の学校は教員からの聞き取りであり、把握の方法がまちまちであった。このため、今後のいじめの問題解決、未然防止に役立てるために、全児童生徒を対象とした統一のアンケートを実施した。現在集計中であるが、今後集計結果をもとに、児童、生徒の実態をより詳しく分析し、いじめの問題解決、未然防止に役立てていきたいと考えている。

以上である。

伊東委員長 ありがとうございます。
 その他、あるか。
 それでは、今後の日程について、お願いします。

小野 教育委員会の今後の日程についてご報告する。

庶務課長補佐 事前にお配りした教育委員会の今後の日程に誤りがあり、本日差し替え分を配付させていただいた。ご迷惑をおかけして申しわけなかった。今後はこのようなことがないように十分注意するので、よろしくをお願いします。

 最初に、1月16日火曜日、午前2時から東京都市町村教育委員会連合会第3回常任理事会・理事会が東京自治会館で開会予定である。委員長のご出席をお願いします。1月19日金曜日、午前9時から平成19年度一般会計予算教育委員会意見聴取が庁議室で行われる予定である。全委員のご出席をお願いします。1月25日木曜日、午後6時から萌え木ホールで教育委員会新年会を予定している。全委員のご出席をお願いします。2月2日金曜日、午後2時から東京都市町村教育委員会連合会研修会が東京自治会館で開催される予定である。全委員のご出席をお願いします。2月10日土曜日、午後2時から小金井教育フォーラム・教育懇談会を東京農工大学工学部小金井キャンパス講義室で開催予定である。全委員のご出席をお願いします。2月14日水曜日、午後1時半から平成19年第2回教育委員会を801会議室で開会予定である。3月16日金曜日、中学校卒業式が予定されている。3月23日金曜日、小学校の卒業式が予定されている。最後に3月27日火曜日、午後1時半から平成19年第3回教育委員会を801会議室で開会予定である。

 以上である。

伊東委員長 ありがとうございます。
 報告事項が終わった。

 これもちまして、平成19年第1回教育委員会定例会を閉会する。お疲れさま。

閉会 午後2時19分